

特集にあたって

本学園は、弘治二年（一五五六）に身延山第十四世善学院日鏡上人が山内西谷の地に学室・善学院を開かれたことを創立起源とし、平成十八年に四百五十周年を迎える。このような記念すべき時にあたり、五十八回の歴史を刻む日蓮宗教学研究発表大会の開催校となることは、誠に意義深いものがある。

そこで、これまでの日蓮教学・法華経研究の成果を踏まえつつ、新たな視点に立った研究方法の提言、確立を目指し、今後の研究に一石を投ずることを目的として、「脱構築 日蓮・法華経研究」をテーマに大会での特別部会を企画した。発表者には、日蓮教学・法華経研究において研究を主導し、あるいはまた清新な問題を提起している方をお願いし、ご多忙の中ご快諾を頂いた。特別部会では、開催の趣旨を充分にご理解の上、最新の研究動向から刺激的な論を展開して頂き、また参加者による実りある議論を交わすことができた。

本号においては、特別部会で発表された諸氏のうち五氏から玉稿をお寄せ頂いた。何れも当日の議論を踏まえ、テーマを一段と深化されている。発表の諸氏に改めて感謝申し上げるとともに、本企画が今後の研究、さらに混迷を深める現代社会における仏教のあり方に資することがあれば幸いである。

身延山大学東洋文化研究所長 寺尾 英智